

宮城大学  
×  
伊達市栗野地区

---

伊達ななかまたち

# 1.伊達ななかまたちについて

宮城大学  
事業構想学群地域創生学類  
青木ゼミ所属

## チーム名の由来

栗野地区の所在地である伊達市、宮城大学の仙台市  
ともに、伊達氏が治めていた地域である。  
そのことから、お互いに「伊達」のつながりを捉え、  
一つの仲間として取り組もうという思いを込めた。

## 本事業への応募理由

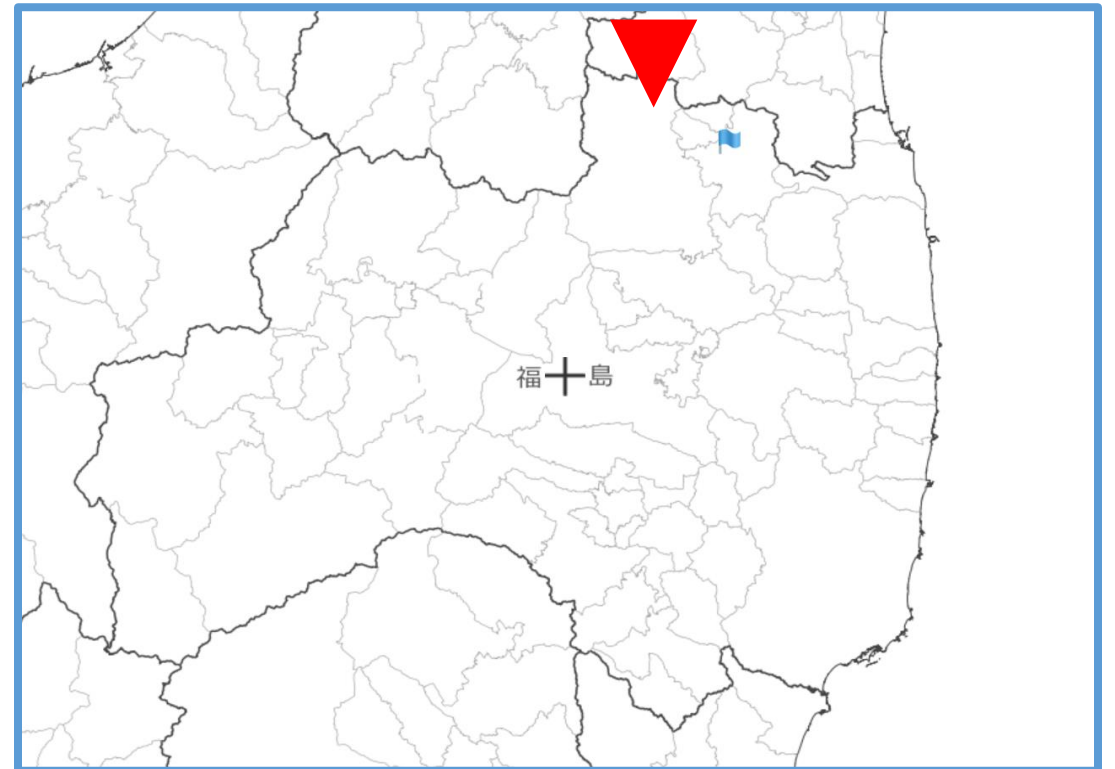
実践的な活動を通して地域社会に貢献する能力を身に着けたい。  
新しいコミュニティと関係性を築き、継続的な交流を深めていきたい。

## 2-1. 栗野地区の概要

東に広瀬川、西に阿武隈川が流れ、  
山一つなく平坦で、農地として優良な土地。

スポーツや芸術など多分野に造詣が深く、自  
治組織独自で婚活事業などを行っている。

土地面積 : 5.52km<sup>2</sup>  
人口 : 1876人  
世帯数 : 663世帯



## 2-2.栗野地区のイメージと実際

### イメージ

- ・高齢化が進み自主活動もままならない
- ・地域の元気が失われている
- ・大学生の活動が受け入れられるか心配

### 実際

- ・地域内の活動が盛ん
- ・子供から高齢の世代にかけてみんな元気
- ・大学生を温かく受け入れてくれた



# 3.今年度の活動内容

## ●現地訪問 ⇒栗野について知る、関係性の構築

- 8月22日 顔合わせ
- 9月24日 栗野地区体育祭
- 11月11日 3世代ふれあい事業
- 1月14日 栗野地区新年会



## ●調査 ⇒現状把握、情報の収集

- 12月下旬～1月上旬 地域づくりアンケート実施
- 2月2日 中間報告会



### 3.今年度の活動内容

#### ●アンケート調査での住民の声

- ・車があれば困らない地域
- ・自然環境が良い
- ・地域の人が暖かいと感じる
- ・果物、野菜が豊富で美味しい
- ・長く暮らしたこの地域が一番楽しい

- ・若者が残らず、子供も減っていく
- ・少子高齢化で若者の定住者が減少
- ・若者が少なく、町の活動が持続出来ない
- ・将来的な買い物や移動手段に対する不安

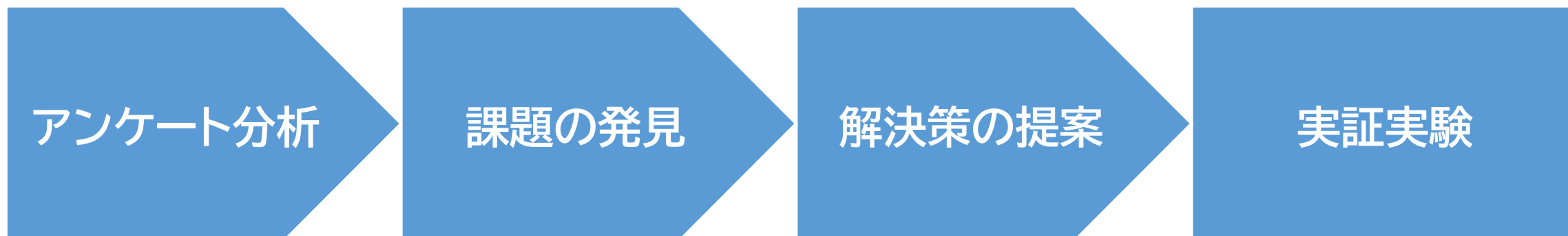
## 4.まとめ

---

### ●2024年1月19日時点、アンケート結果分析中

具体的な課題の発見と解決策は、2月中に策定予定である。

今後のフロー



## 5. 今後に向けて

---

今年度は課題発見のための活動が中心  
来年度以降、解決策の実証実験を予定

- ・解決策の検討、提案
- ・実施に向けた準備
- ・実証実験
- ・住民中心での活動へ継承



**持続的な栗野地区の暮らし**